



トライアル

令和2年1月6日（月）
四季が丘小学校 研究推進便り

12月12日（木）に、広島県西部教育事務所の舞慎一指導主事、廿日市市教育委員会の福島千恵子指導主事をお招きし、学力フォローアップ校事業第5回授業研究会を行いました。

提案授業は、第1学年の算数科「たすのかな ひくのかな」でした。本時の目標である「加減計算の意味をもとに演算決定し、その根拠をことばや数図ブロックを用いて考え、説明することができる。」をどの子ども達成することができるよう、さまざまな手立てを取り入れました。計算指導で最も大切なことは、演算決定能力を身に付けさせることだと言われています。問題の意味を理解し、動作化や図をかくことをもとに確実な立式へつなぐことができました。



掲示した「〇図かんぺき大作戦」や必要に応じて配付した「計算ばっちりくん」もつまずきを解消する手立てとなっていました。特に「計算ばっちりくん」は自分で自分のまちがいに気づき、自分で修正できることに有効な手立てとなっていました。他学年・他教科・他の単元で反映させていきたいと考えています。

今回は、これまでの学びをつなぎ、本時で予想されるつまずきとその解消のために取り入れた手立てや支援について具体で明記したものを作成しました。

このシートがあったことで、どのタイミングでどんな手立てが有効であったのかが分かってよかった等の感想をいただきました。6回目の授業研究会でも、活用していきます。

本時で想定したつまずきとその解消のために取り入れた手立てや支援について

問題	FU対象児童への手立て	期待する児童の反応
★想定したつまずき 問題1 ④がぼろの森で子どもが6人あそんでいます。そこへ7人きました。みんなでなんになりましうか。 ★問題文に合った動作ができない。 ★合併（図の矢印が→）にしてしまふ。 ★演算決定の根拠が説明できない。 ★ $6+7=14$ などの計算ミスや答えに単位がなく13にしてしまふ。	① 問題に合った画像を提示したり、問題文を一文字ずつ一緒に読んだりし、問題場面をイメージさせる。 ② 動作化を取り入れ、数が増えることを捉えさせ、正しい演算決定につなげさせる。 ③ 「まるずかんぺき大作戦」カードをもとに演算決定の半がかりを見付けさせる。 ④ 「6+7になるわけは、〇人くらと数が()からです。」の話を示し、説明の練習をさせる。 ⑤ 「けいさんばっちりくんカード」を使って、6+7の計算が正しくできているか、単位をつけて答えを書いているか確認させる。	〇〇〇〇〇〇 - 〇〇〇〇〇〇 ・7人来た、数が増えるからたし算です。 ・式は6+7だよ。 ・6人いて、後から7人くるから7このブロックを右に動かすよ。 ・6+7になるわけは、初めに6人いて後から7人来て増えるからです。 ・式は6+7=13 ・答えは13人です。 ・次は何算かな？ ・もつと計算したいよ。



指導助言より 今後に生かしていきたいことをまとめました！

- 思考過程に沿った手立てを！

最終的には学んだことを活用して自力解決できる子どもたちにしていかなければならない。手立てや支援をどのタイミングでどのように示していくのが児童の学びにとって最適なのか、教師側がその目的を明確にもって具体的に考えていく。

- 手立て、効果の検証を！

手立てによってどのような変容があったか、またその後の学びをどのように変容させたか等を見取っていく。

- 手立ての蓄積・共有・活用を！～児童がその手立てを認識して自分のものにできるように～児童がつまずきを自分で乗り越えることができるように、児童自らが選択し使えるような、手立てを講じていく。

「先生が汗をかいたら子どもは応えてくれる。」これは、県教委の立田主任指導主事のお言葉です。

2月14日（金）の今年度最後の授業研究会に向けて全員で汗をかきながらがんばっていきましょう！

読み書き・計算に困難を持つ子への支援について

12月26日(木)に、松江市立意東小学校の井上賞子先生をお迎えし、充実した研修を行いました。

読むことや書くことの困難は特性であって、子どもの理解や能力とは異なることについて正しく自己理解させることが大前提であることを学びました。個別指導を進める前に、的確な見取りを行い、学ぶ意欲を損なわないように意欲を高めることから始めることも大切です。

野村先生と連携しながら、スモールステップで、できるところからスタートしていきたいです。

午後の研修会では、読み書きの習得を支えるツールとして活用したICTをたくさん紹介していただきました。

アプリについては、ICT支援員さんと連携し、導入していきたいと考えています。



お知らせ

- 昨年末に総合的な学習の時間の担当者会を行いました。来年度につなぐ学びの内容と系統性を整理することができました。生活科での学びが総合での学びに引き継がれるように工夫しました。また、キャリア教育の視点も取り入れました。年度末までに研修を行い、全体で共通理解を図っていきます。
- 1月23日(木)は、四季が丘中学校区三校合同公開研究会です。本校からは、西本先生が算数科「円と正多角形(プログラミング)」の授業を提案します。当日の授業は廿日市市ICT教育プログレス研修も兼ねています。お知りおきください。
- 1月27日(月)に東京学芸大学の鈴木直樹准教授が来校されます。詳細は、後日お知らせします。



学びをつなぐ…蓄積・共有・活用・改善

各学年で作成した学習指導案に先日指導助言をいただいた「手立ての蓄積・共有・活用」に「改善」を加えて来年度につないでいきます。学習指導案に手書きでGOOD(赤)とMORE(青)を加筆します。MOREについては代案も書いていきます。それらをもとに、「本時で予想されるつまずきとその解消のために取り入れた手立てや支援」についても焦点化して、まとめます。作成のための研修も設定する予定です。これまでの学びをつなぎ、指定校2年目のまとめと来年度への準備を進めていきましょう。

